

平成26年度予算額:201百万円

超小型モビリティは、交通の省エネルギー化とともに、高齢者を含むあらゆる世代に新たな地域の手軽な足を提供し生活・移動の質の向上をもたらす、少子高齢化時代の「新たなカテゴリー」の乗り物。

その普及の前提となる関連制度の検討に向け、成功事例の創出、国民理解の醸成を促す観点から、地方公共団体等の主導によるまちづくり等と一体となった先導導入や試行導入の優れた取組みを重点的に支援。

## 人口減少・少子高齢化時代に向けた創造的イノベーションの提案～超小型モビリティの導入の意義～

① **子育て世代や高齢者の移動支援**に寄与するような生活交通における**新たな交通手段**の提供

→**超小型モビリティを活用した低炭素・集約型まちづくりを推進** ※都市局「先導的都市環境形成促進事業」  
住宅局「環境・ストック活用推進事業」等との連携を予定

② 観光地や地域活動の活性化を通じた**観光・地域振興**

③ **省エネ・低炭素化**への寄与

④ **新規市場・需要**の創出

### 「超小型モビリティ」とは？

自動車よりコンパクトで、地域の手軽な移動の足となる  
1人～2人乗り程度の車両(エネルギー消費量は、通常  
の自動車に比べ1/6 (電気自動車の1/2)程度)



超小型モビリティのイメージ

地方公共団体等の主導によるまちづくり等と一体となった

**先導・試行導入を重点的に支援**

＜車両導入、事業計画立案及び効果評価費等の1/2(民間事業者等にあっては1/3)を補助＞

※事業計画を公募、外部有識者により評価。優れた計画を選定して、重点的に支援。

取  
組  
み  
の  
加  
速

国内外の超小型モビリティ  
の活用方法や地域課題  
への対応手法等を  
調査・整理し、関心のある  
地域に広く発信。

### 実感できる効果

幅広い市民の方々に実際に車両を見て、乗っていただく中で  
**「新たな移動スタイルへの気づき」、「暮らしや観光でエコを実践する喜び」**  
を実感していただけるような、超小型モビリティの特性を最大限活かした  
**「成功事例の創出」**を進め、**「国民理解の醸成」**を図る。



### 目 標

幅広い普及に向け社会受容性を高めたのち、車両区分等関連制度の整備を行い、**超小型モビリティの市場を創出**。